

## 新「別府温泉」へ私の提言

大阪明浄大学観光学部

教授 浦 達 雄

## 一 別府大学での六年間

私は平成元年（一九九四）年四月一日、縁あって別府大学に着任した。所属学科は、短期大学の英語科で、大分校舎が主な勤務先となった。授業科目は観光学概論・観光地理学・日本（外国）地誌・観光事業論・観光文化論などを担当した。商経科・生活文化科・英語科の学生に対して、観光科目を開講したのである。自称「観光学の何でも屋」として働いた。その間、史学科では地理学演習を担当し、卒業論文の指導も行ったが、史学科の地理では自ずと限界があった。

観光野外実習では、別府・由布院・大分の巡検を実施した。年度で調査地は異なるが、別府では、明礬と竹瓦界隈を中心によく歩いた。最初の「街歩き」は元年五月

のことである。

実習コースは、別府駅からバスで明礬に行き、地藏泉と鶴寿泉の周辺（湯治場としての原点）を歩き、その後、バスで下がり、別府公園から徒歩で別府駅を通過して、竹瓦温泉まで行くのが通例となった。いま、手元に数枚の集合写真があるが、その後の竹瓦クラブ主催の「街歩き」に対して、先鞭をつけたと密かに自負している。

今となつては勝手な弁解だが、別府に関する研究は、総論的なものしか出来なかった。その一つは、『別府大学短期大学部紀要』（第十五号）で、タイトルは「別府温泉の観光診断」を発表した。

観光地理学研究教授とゼミ学生、約三百人に実施したアンケート調査による全国の六有名温泉地の観光魅力調査では、百点満点での評価とした。その結果、別府の総合観光地力は六九・〇を獲得し、四位に輝いた。ちなみに一位は箱根七九・七、以下、二位は松江七〇・二、三位熱海七〇・一、五位は鬼怒川六八・七、六位は道後六六・七の順であった。

つづいて「同紀要」（十九号）では、「明礬・鉄輪・別府温泉の観光診断」を発表した。

観光魅力調査（別府大学の女子短大生に対するアンケート調査）では、総合観光魅力は、明礬六〇・一、鉄輪五七・二、別府六〇・八を示し、ポイント的には別府（竹瓦界限）が、明礬・鉄輪をわずかに上回るようになった。この調査は広域になればなるほど、ポイントが高くなる仕組み。先に調べたように別府八湯では六九・〇、個別に見た場合は、それぞれポイント前後に甘んじており、「別府八湯鉄輪温泉」とか「別府八湯明礬温泉」とした



▲竹瓦温泉前で説明を受ける町歩き参加者（今日新聞）

方が、温泉地としての魅力アツプにつながることもが判明した。つまり別府八湯を前面に出すことで、お互いに補完関係が成り立つのである。一九九九年秋に募集があった別府商工会議所

の「創立七十周年記念論文」にも応募し、秀作に入賞したことも大きな想い出となった。タイトルは、「アーバン・ツーリズム IN べっぶ／街歩きが楽しい湯の街・別府」の提案である。要は、街歩きを通しての中心商店街の活性化策を提案し、「歩いて楽しい湯の街・別府」の振興策を主唱したのである。

その他には、中央の某業界月刊誌で、すでに十数年になるが、ゴースト・ライターを行っている。全国の規模なホテル旅館を取材することで、その経営方針や動向などを把握して、読者に対して経営のヒントを提供する記事である。別府大学着任以降、現在まで別府八湯では、二十軒位の旅館の取材を行った。いままで取材した旅館は岡本屋・ふじ乃・山田別荘・野上本館・ホテルアーサー・入舟荘・みゆき屋・みどり荘などである。

野上本館の野上泰生社長（別府八湯竹瓦クラブ世話人代表）とは、この旅館取材を通して知り合った。野上さんは、その際、「二村一賓（客）」を提案され、「アイデアマンだな」と感心した。私は、旅館周辺の街歩きマップの作成を彼に提案したが、すぐに地図を作成されたので、その行動力には驚いた。こうした流れが、別府八湯

竹瓦クラブの活動につながったのかな、と思っている。

## 二 大阪明浄大学に移る

平成十一年四月一日、関西空港近くの熊取町で開校した新設の大阪明浄大学に着任することになった。西日本最初の観光学部を標榜する単科大学だが、短大時代を含めても歴史は浅く、別府大学を去ることは大変忍び難いものがあった。

大阪明浄大学では、観光概論、観光地理学Ⅰ・Ⅱ、専門演習Ⅰ・Ⅱの五コマが担当科目で、自分の専門がようやく生かせることになった。研修日が充実しており、時間的にも余裕が出来たため、月に二回は週末の別府ステイが可能となった。

同年四月以降は、別府市立図書館と大分県立図書館通いが日課となった。別府関係の図書を閲覧するためである。別府大学時代は、別府関係図書は、いつでも手元にあり、見ることは可能だったが、大阪に行ったために閲覧は不可能となった。

ここで、お願いだが、別府市立図書館も早く情報化

(パソコン検索が出来るように…) されることを希望したい。それから書庫に眠っている別府関係の貴重本や地図などの一般公開を切にお願いしたい。

大阪における別府との出会いは、主として街づくりに関わる人たちがインターネット上で意見を交わし合う別府八湯メール(ML)であった。ホテル「ニューツルタ」の鶴田浩一郎社長の紹介で、同年七月に入会したが、このMLは別府関係の情報収集の宝庫となった。その一つが「別府八湯温泉道・表泉家」という企画である。

これは別府八湯から八十八ヶ所の温泉施設をリストアップし、それを巡るスタンプ・ラリーである。平成十二年三月の温泉祭でスタートしたイベントだが、APU(アジア太平洋大学)の湯遍路二人と共に温泉巡りをしていくうちに、二人の名人候補を飛び越して、はからずも私が初代名人となってしまった。

平成十二年六月、竹瓦温泉二階で開催された別府大学のシンポジウムに、街歩きの平野さん、野上さん達と共に講師として呼ばれた。主任教授の篠藤明德教授から私に与えられた研究テーマは「温泉・観光・街づくり」であった。



▲現在のマルシヨク流川店駐車場西側入口付近、旧国道筋のにぎわいを伝える  
絵はがき  
(友永安信さん蔵・今日新聞)



▲木造3階建の旅館群、ひとわき高い電柱の並ぶ流川通り (今日新聞)

その中で、聴衆である学生達に向かって、「従来からあるものを生かす街づくり、街づくりから街づかいへ、いま自分で出来ることから始めよう」と主唱した。話しながら、自分は研究以外で何が出来るかを自問自答し、脳裏に浮かんだのがコレクターであった。その一つが戦前に発行された別府の「絵葉書」の収集である。別府のコレクターは、収集はするが貸出しはしないと聞いていた。それでは、自分が貸出自由のコレクターになろうと決意したのである。

夏休みを通して、絵葉書の収集に奔走<sup>ほんそう</sup>。その結果、現在までに約一千枚の絵葉書を収集した。もちろん貸出は自由で、同春秋の路地裏文化祭では、「URACコレクション」として「ほっとストリートやよい」で、ガレッジ展示を行って頂いた。ついであるが、別府関係の図書や地図の収集も始めた。価格の安いものから収集しており、現在、ゼンリンの市街地図などに興味を持っている（不用の地図や図書があれば、お分け願いたい）

### 三 別府温泉郷の形成と

#### 観光動態に関する地理学的研究

この厳しい表題が、数年前に定めた別府研究のメインタイトルである。平たく言えば、前半が別府の歴史、後半が旅館など観光施設の経営実態である。

旅館関係では、初代経営者の氏名、その出身地と系譜、開業の理由などである。これは、他の業種でも同じである。別府の歴史は、総論についてはほぼ出来上がっていると思われるが、個々の歴史となるとその実態把握は困難である。情報提供の最も欲しい分野である。

以下、いま感じている疑問点の二、三点を取り上げてみよう。まず、江戸時代の湯株<sup>ゆかぶ</sup>保有者の話である。湯株保有者は、湯宿を営業しており、文化年間（一八〇四〜一八一八年）の頃、別府には二一軒の宿があったとされている。しかし、その宿の場所は、果たしてどこなの



▲「旧国道」と「官公庁中心地の跡」の碑（長寿みそ前）

か。

流川と小倉街道（現在の西法寺通り）が交差する付近に建ち並んでいたと想像しているが、個々の旅館が具体的にどの地点に立地していたのかは興味深い。

今一つは、別府最初の突き湯（温泉の人工掘削）のことである。明治十二年四月説、明治二十二年説、萬屋儀助説、神沢（かみざわ）又市郎説などがあるが、真相はよく分からない（文献がない）。

その他、記録から消えている温泉施設（豊湧泉などの外湯）の場所など、疑問点や調べたいことは山ほどある。この研究が終われば、ライフワークとしての別府研究の



▲ヒットパレードクラブそばに建った石碑（「別府市報」より転写）

一環として、念願の「別府八湯の観光関係年表」の作成に入りたいと思っている。時代は、古代から現代まで、いずれは一冊にまとめたい。総論は大体分かるが、個別の情報が欲しいところである。つまり旅館史・商店史・施設史・人物史・開発史・交通史・別荘史・マンション史などが貴重項目となるであろう。

#### 四 二十一世紀の「別府八湯」

将来の別府がどうなっているか、誰も想像がつかないだろう。しかし、夢を見ることは楽しいことである。別府の旅館数は、高度経済成長期で九百軒を数えたと言われている。現在、何軒の旅館があるのか、よく分からない。平成九年に保健所で調べたところ、五百七軒のホテル旅館が営業許可を得ていた。

しかし、各業者に手紙を送ったところ、百軒近くが転居先不明で送り返されてきた。営業許可の二重申請もあり、現在の旅館数は実際三百軒程度かも知れない。観光の視点で見れば、旅館組合加入数が正解かも知れない。別府は世界を代表する温泉地であることは、紛れもない事実である。しかも源泉所有の旅館が多いので、本物の

別府温泉ここが日本一			
源泉数	順位	地名	源泉数(孔)
	1	別府	2,846
	2	湯布院	876
	3	伊東(静岡県)	657
	4	熱海(静岡県)	530
	5	指宿(鹿児島県)	465

泉質数 日本一			
地球上の11種類中10種類			
単純温泉・二酸化炭素泉・炭酸水素塩泉・			
塩化物泉・硫酸塩泉・含鉄泉・含アルミニウム泉			
・含銅-鉄泉・硫黄泉・酸性泉			
※別府市にない泉質=放射能泉			

湧出量	順位	地名	湧出量(kd/日)	湧出量(l/分)
	1	別府	136,841	95,028
	2	湯布院	63,091	43,813
	3	伊東(静岡県)	49,577	34,428
	4	草津(群馬県)	39,500	27,430
	5	指宿(鹿児島県)	35,396	24,580

※平成11年3月末現在 環境庁資料による

### ▲市提供資料による

温泉が各旅館で楽しめることは、本当に珍しい。世界の泉質一一種類中一〇種類が別府にあるなんて、本当に信じられない。草津、白浜、道後、有馬にしても源泉総数は知れており、まさに別府は“温泉天国”である。ところで、鉄輪の誠天閣は、ラジウム泉が湧出していると玄関先の看板に出しており、これが事実だとすれば別府に一一種類の泉質が存在することになる。

こんなに素晴らしい別府だが、全国の温泉地同様に、

景気の低迷で苦しんでいる。データ処理をすれば、人口規模で見た場合、別府の商店数などは、たぶん適正規模をオーバーしているであろう。従って、自然淘汰はある程度仕方ないとしても、旅館がバタバタ倒産したのではイメージダウンは避けられない。

旅館業の不振克服に良薬は存在しない。しかし、勝ち組み、負け組みが明確となってきたことは、紛れもない事実である。我が郷里・石川県珠州市のランプの宿「よしが浦温泉」は、まさに不況知らずである。他にライバル旅館が無いことも幸いしている。経営者の話では、若い頃からアメリカ流のマーケティングを本場のサマースクールなどで学んでおり、立地環境を大いに生かし、時代を先取ることを目指しているという。こうした経営は、別府に当てはまるとは決して思わないが、経営に対して勉強熱心であることに間違いない。

別府は温泉資源の宝庫である。ジモ専(地元民の専用温泉)をはじめ、外湯の数は計り知れず、その代表は「浜田温泉」や「竹瓦温泉」、鉄輪の「むし湯」「柴石温泉」などとなろう。岸川多恵子さんの調査によると、温泉は木造建築に限り、浜田温泉は、全国で二番目に古い

外湯の温泉施設とか：（最古は道後温泉）。

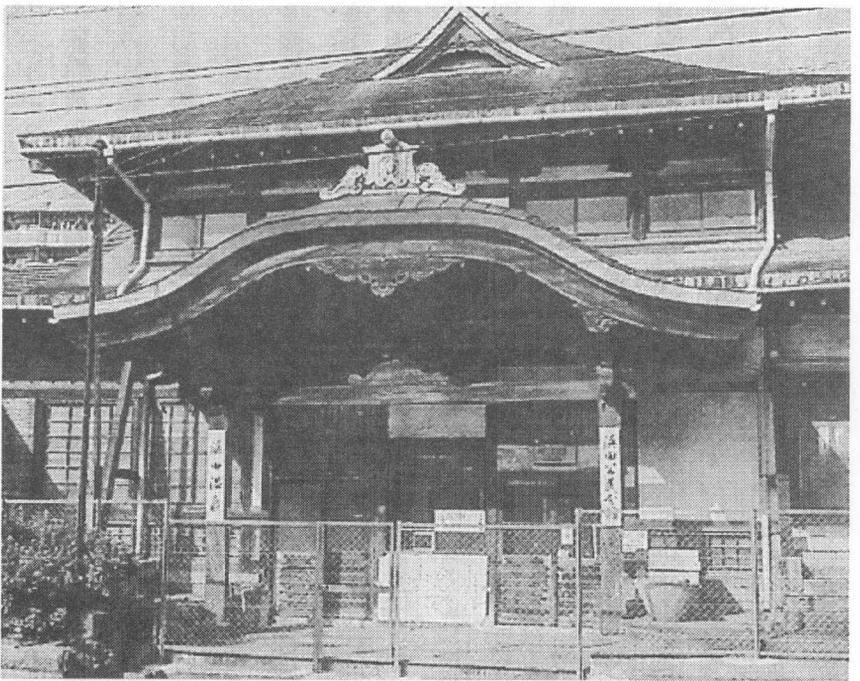
## 五　すぐ出来ることから始めよう

一時期、「街おこし」「街づくり」などの言葉が大流行した。行政からの補助金目当ての開発型・振興型などが主流であった。我々は、何か困れば行政に安易に依存しがちだ。そろそろ、自前の力で「出来ることから始めよう」というのが私の提唱である。

別府では、ボランティア団体が数多く活動しているように見受けられる。だが、一般市民の個々の自発的活動となると、そう多くはないのではなからうか。道路のゴミ拾いなどは、誰でも出来ることである。

別府には、さすがに「公園」が多い。これは結構なことだ。しかし、中にはゴミの散乱している処もある。ゴミ捨てや散らかしなどは、一部の心ない人の行為に過ぎないが、公園のゴミは観光地としては致命傷である。

前から気にしていたことだが、別府は観光地としての「案内標識」や「地図」が少ないと思われる。案内標識の整備は、土地や看板など資金を要するが、地図上で歴史



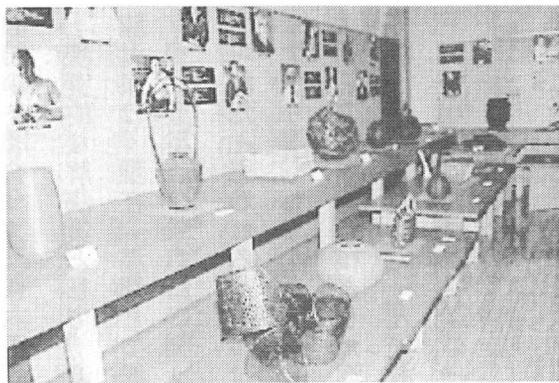
▲建て替えをめぐり市民運動の起こった旧浜田温泉（大分合同新聞）

や文化を再現することは容易と思われる。先人の功績を称えた「記念碑」も別府は比較的が多い。しかし、それがどこにあるか、よく分からない。

近年、補助金で整備したと思われる市街地路上の案内

地図にしても、的確な情報が少ない。例えば、コンビニや駐車場の場所などである。

駐車場といえば、旧楠港の埋立地を駐車場として開放してもらいたい。費用は無料、有料なら一日百円程度に。市街地や郊外のスーパーマーケットの駐車場が無料であり、駐車場の無料化は、営業努力で可能はずである。旧楠港の跡地は、現在、有効活用が出来ていないので、別府旧市街地での買物客や観光客の駐車場として開放すれば、商店街の活性化に少しは貢献できると考えられる。



▲別府市竹細工伝統産業会館（市提供）

ところで、別府八湯温泉道・表泉家は、温泉施設八十八ヶ所へのスタンプリリーである。これを他の分野へ応用することは常日頃から考えており、観光振興策の手段として利用したいと目論んでいる。また、別府八湯景観八十八ヶ所の選定はどう

だろうか。観光客に対する写真撮影ポイントの紹介であり、全部回った場合には、名人として、表彰することも一考すべきである。八十八ヶ所の写真コンクールなども可能であろう。

最後に一言。これからは、街づくりではもはやなく、「街使い」だと確信している。つまり開発型ではなく修復型で、「あるものを有効に生かす」ということである。



周辺案内図



利用案内	
■所在地	別府市東荘園8-3
■電話	23-1072
■FAX	23-1085
■開館時間	8時30分～17時
■休館日	毎週月曜 (月曜が祝日の場合は火曜) 年末・年始 (12月29日～1月3日)
■入館料	高校生以上 300円 (20人以上の団体250円) 小・中学生 100円 (20人以上の団体70円)
■事前予約	団体で入館及び体験学習の希望者は、事前予約が必要です。

リサイクルは確かにコスト高かもしれないが、環境問題を配慮すれば、自ずと結論が出よう。

さらに関心の高い「浜田温泉」問題だが、浜田温泉館は、ぜひ保存して頂きたい。すでに新浜田温泉は完成しており、これを覆す気持ちは毛頭無いが。昭和十年建築の浜田温泉は、別府、いや世界の

